【実施区域・面積】

奈良県、　4.06ha

【生態系タイプ】

里山林、人工林

【実施区域の状況】

「龍門大宮　鎮守の森」は吉野町山口地区に並び立つ「高鉾神社」「山口神社」「意賀美神社」の境内林として形成されている。その歴史は古く、約1000年前の延喜式にその名前を見ることができる。現在は、吉野町の山口自治会を中心に町内の六ケ大字（山口、平尾、西谷、佐々羅、峰寺、香束）が維持管理を行っているが、かつては現在の町域を超え龍門郷21ケ村の惣社として「龍門大宮」として信仰を集めてきた。山の恵みに感謝する心から始まった神社であり、同サイト内には人々の生活・伝統が社叢として自然植生にも現れている。社叢には、生育環境の北限と考えられる「ツルマンリョウ」を含め、スギ・ヒノキ・カシ類・やヤブツバキ・サカキなどが生育している。

【目標】

地域における人と自然のかかわり方を次世代に伝え、生活・文化の形式として紡がれてきた同サイトの重要性に対する理解を促進する。

【主な活動内容】

別紙参照

【モニタリング計画】

同エリア内の動植物の状況

特にﾂﾙﾏﾝﾘｮｳの自生状況、自生エリアの樹冠疎密度、照度等について目視による経過確認を行う。

ラインセンサス（活動計画書　ｐ２ 参照）

社殿エリアのﾂﾙﾏﾝﾘｮｳ自生地を通り、人工林エリアのﾂﾙﾏﾝﾘｮｳ自生地までを繋いだルート

ラインセンサスによる植物同定

木本を中心とした調査を実施、昆虫等の動物、草本類、シダ・地衣類等に関しては専門家の協力を得て調査項目を追加予定。

【実施体制】

年2回程度。山口自治会及び吉野町が協働して実施

基本の調査に加え、各方面の専門家の協力を得られる場合はより詳細な項目を設定する予定。









【計画期間】

令和７年9月～令和１２年３月